

第二次斜里町立図書館資料収集計画

(平成31年度～平成35年度)

(2019年度-2023年度)

平成31年3月

斜里町立図書館

はじめに

近年、急速な技術の革新や個人のライフスタイル、価値観の多様化など、社会情勢の変化により、図書館においても新たな視点に基づく図書館像が生まれてきています。

平成 24 年 12 月に改正された『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』（文部科学省告示）においては、図書館資料について「利用者及び住民の要望、社会の要請並びに地域の実情に十分留意しつつ、図書館資料の収集に関する方針を定め、公表するよう努めるものとする」とあります。更に、「利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題解決に向けた活動を支援」に努めることが図書館サービスとして掲げられています。

斜里町立図書館は、平成 27 年 3 月の新館開館以降、「斜里町立図書館資料収集方針」のもと策定した 5 か年の資料収集計画に沿って、町民の課題解決となる資料の充実を図ってきました。しかし、変動の激しい社会情勢や町民の知りたいという要求に対応していくためには、常に利用者のニーズと蔵書構成の把握に努め、魅力的な蔵書を作り続けなければいけません。

これらを踏まえ、資料の収集において社会の動向や地域のニーズの変化に対応し、公平で自由な視野をもった選書に努め、町民の知的財産として後世に継承するために将来を見据えて計画的な整備を行うため、第二次斜里町立図書館資料収集計画を策定します。

〔目次〕

I. 趣旨	・・・・・・・・1
II. 計画期間	・・・・・・・・1
III. 現状と課題	・・・・・・・・1
1. 現状	・・・・・・・・1
(1) 第一次斜里町立図書館資料収集計画の進行状況	
(2) 利用者層と貸出状況	
2. 課題	・・・・・・・・3
(1) 幅広い興味・情報要求への対応	
(2) 子どもの読書活動支援の充実	
(3) 地域資料の把握と充実	
IV. 収集目標	・・・・・・・・4
1. あらゆる世代への自主的な読書意欲や学習を支援する蔵書の構築	
2. 子どもの読書活動を支援する蔵書の充実	・・・・・・・・5
3. 地域を支える蔵書の充実	
V. 蔵書構成	・・・・・・・・6
1. 基本的な考え方	
2. 分類別蔵書構成比の考え方	・・・・・・・・7
3. 平成31年度～35年度 分類別蔵書数の推移表	・・・・・・・・8

I. 趣旨

公共図書館では、町民の求めている情報や生活を豊かにする資料、学習や研究のために役立つ資料など、常に蔵書のバランスを考慮しながら収集・提供・保存することが求められます。

本計画は「斜里町立図書館資料収集方針」を踏まえて、約 11 万冊となった蔵書を収集と除籍を行いながら随時更新していき、魅力的な蔵書を維持することに重点をおきます。

II. 計画期間

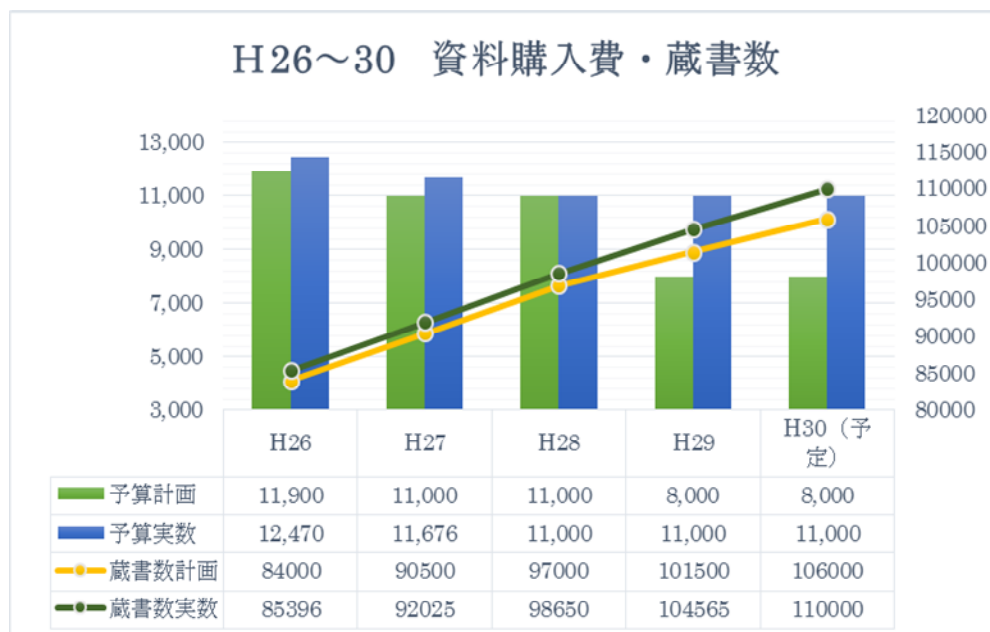
計画期間は、平成 31 年度(2019 年度)から平成 35 年度(2023 年度)までの 5 年間とします。

III. 現状と課題

1. 現状

(1) 第一次斜里町立図書館資料収集計画（平成 26 年度～平成 30 年度）の進行状況

当初の計画では、平成 30 年度末での蔵書数を 10 万 6 千冊としていましたが、図書資料整備基金等の活用により年間約 6,500 冊以上を収集してきました。このため平成 30 年度末に蔵書数 11 万冊に到達することとなり、計画よりも早く収集を進行させることができました。

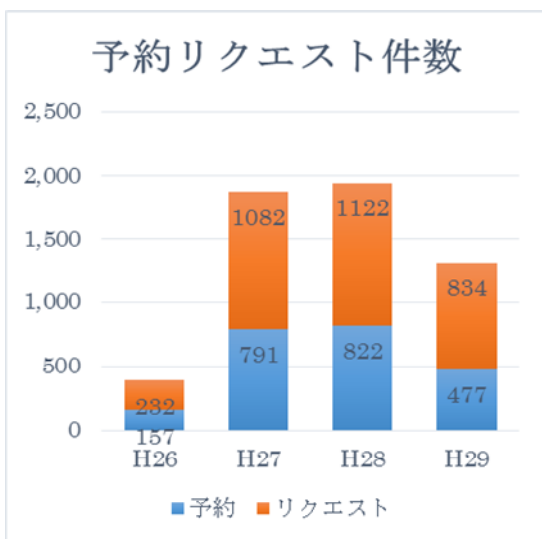
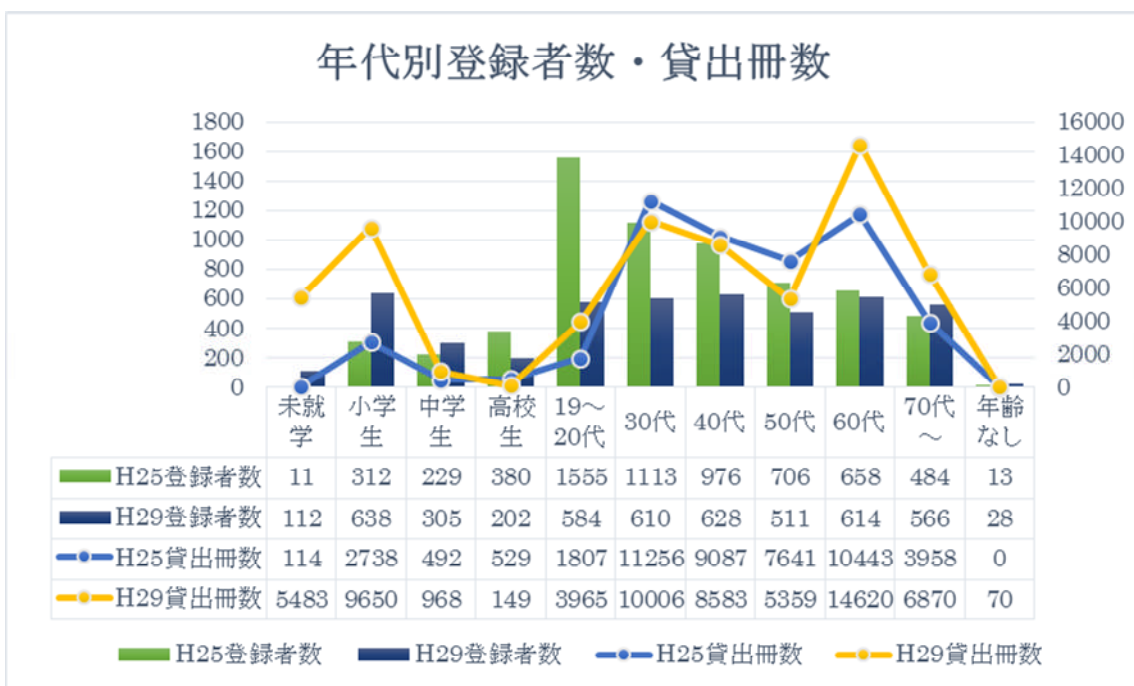


(2) 利用者層と貸出状況

①登録者数は新館移転時に転出者等の整理をしたため全体的に減少しており、実際に利用する利用者は世代ごとにあまり差がないことがわかりました。

小中学生は学校図書館利用のため全校児童生徒を登録していることから登録者数が増えています。また、これまで登録者数の少なかった未就学児の登録者も増えています。

②貸出率は全体的に増加傾向にあり、特に未就学児から小学生や高齢者の利用が大幅に増加しています。これまで30～40代女性が大きく占めていた利用層が、幅広い世代に広がっていることがわかります。反面、中高生の利用は依然として少ないままという現状にあります。



③予約リクエスト件数は新館開館以降、旧館より大幅に増加しており、予約リクエスト制度の浸透と利用者ニーズの多様化がうかがえます。

2. 課題

利用者にとって魅力的な蔵書を保ち続けるため、すべての分類に目を配り、適切な更新を継続して行っていく必要があります。また、その上で資料収集における主軸として留意すべき点については以下の点が考えられます。

(1) 幅広い興味・情報要求への対応

社会情勢の変動に伴い、地域や個人の抱える課題は多様化する傾向にあります。図書館は解決の糸口をみつけられる地域の情報拠点として、広く町民に活用されるよう努めていかなければいけません。

幼児から学生、社会人、高齢者、ハンディキャップを持つ方などすべての町民が図書館を活用できるよう、町民のニーズを把握しながらレファレンス等の課題解決支援サービスを広く周知し、幅広い興味に対応できる蔵書を構成することが必要です。

(2) 子どもの読書活動支援の充実

幼児から高校生まで新館の立地等により図書館への来館は増えていますが、学年が上がるにつれ図書館資料を手にする割合は減少する傾向にあります。自身に根差した読書習慣を身につけるためには、幼いころから読書の楽しさを感じてもらうための働きかけが重要です。

幼児から青年期まで、年代に合わせた資料を整備し、興味を持ってもらえるような魅力的な蔵書を整える必要があります。

(3) 地域資料の把握と充実

地域資料においては、市販されている資料のほか、町や施設、団体等で発行している資料など、地域を知るための貴重な資料を冊子媒体に問わず積極的に収集を行い、保存していかなければいけません。また、年度ごとに作成される地域資料の継続保存に努める必要があります。

IV. 収集目標

『新斜里町立図書館建設基本計画』において、蔵書規模の目標を開架・準開架・閉架すべてを含めて12万冊としています。平成30年度までで全蔵書を合わせて約11万冊を収集している状況ですが、地域資料は原則永年保存のため今後も蔵書数が増え続けていきます。

このことから収蔵スペースを考慮し、保存期限に限りのある雑誌資料と永年保存の地域資料を除く一般資料の蔵書総数を11万冊とし、地域資料を年間500冊収集することで一般資料と合わせて20年後に蔵書数12万冊となることを目指します。

これを基本として、特に今後5年間における資料収集目標を以下のとおり定めます。

1. あらゆる世代への自主的な読書意欲や学習を支援する蔵書の構築

地域の情報拠点として、子どもから大人まであらゆる世代にとって必要とする情報を手に入れることができる資料のほか、新たな興味・関心を刺激するような、町民の知りたいという学習意欲に応える資料の提供に努めます。入門書から専門書まで、必要に応じて難易度ごとの蔵書バランスを意識した選定を行い、町民の知りたいに応えられる適切な資料を提供できるよう努めます。

○「社会」の集中更新

「社会」は、政治・経済・法律・教育など、生活や仕事と深く関係する分野であり、特に制度や法律関係は制度に変更があった際に速やかに資料を更新し、鮮度の高く正確な情報を提供する必要があります。

○「技術」の集中更新

「技術」は、趣味・実用書として広い分野を網羅しており日常生活に結びつく範囲が広く、年代を問わず人気の高い本の多い分類です。利用頻度が高いため資料の痛みやすく、適切な更新が必要となります。

○様々な媒体の資料の整備

すべての方に開かれた図書館であるために、大活字本や点字資料、視聴覚資料、各種データベースなど図書以外の媒体の資料も収集・提供を行います。

2. 子どもの読書活動を支援する蔵書の充実

乳幼児期から青少年期まで、子ども時代は生涯にわたる読書の習慣と楽しみを体得する重要な時期と言えます。読書では、知識や情報を得られるという目的以前に、感性や想像力を豊かにし、自ら考える力を養うことも可能であり、絵本～児童書～中高生向き図書～一般書へと導くことができるような資料選定に努めます。

また学校連携として、子どもたちの読書や学習における資料のうち、学校図書館では不足する部分を、町立図書館が支援するかたちで資料の収集を行います。

○児童書から一般書へのつながりを意識した資料構成

乳幼児から幼児、小学生、中学生、高校生と成長していく過程で個人の興味は大きく変動していきます。年代別に合った資料をそれぞれ収集し提供していくことで、読書習慣を身につけることができる読書環境としての魅力的な蔵書の構成に努めます。

○中高生向き資料の収集

中学生・高校生それぞれが興味・関心のある情報について把握し、収集できる資料の充実に努めます。また、中高生向けの資料は興味や流行の移り変りが激しいこともあるため、一過性の話題のみに偏ることなく、様々な方向に興味を広げられるような資料を選定します。

3. 地域を支える蔵書の充実

斜里町の歴史や文化を知ることができる資料として一般流通している資料のほか、行政や学校、社会教育施設、各種市民団体と連携して、斜里町に関する資料の充実に図ります。また、斜里町にゆかりのある人物の伝記や著作についても併せて収集に努めます。

○地域行政資料の収集

斜里町が行政機関として刊行している計画書・報告書・統計書等を可能な限り収集・提供できるよう整備を行います。

○斜里町に関連するテーマの資料の収集

斜里町に関する記載が資料の本文中にない等、地域資料として分類しない資料の中でも、「世界自然遺産」「サケ・マス」「ヒグマ」等、斜里町に関連するテーマの資料は地域を知るための資料として収集に努めます。

V. 蔵書構成

1. 基本的な考え方

- (1) 町民が心豊かに過ごせる機会を提供できるよう、常に魅力的で関心を引き出す蔵書とするため、適切な資料の更新および除籍を行ないます。
- (2) 将来においても利用が見込まれる資料、他に類書が見当たらない貴重な資料の保存に努めます。
- (3) 利用者との対話や資料案内、レファレンス、予約・リクエストなどのサービスを通じて、要望を把握し、資料収集への反映を図ります。

2. 分類別構成比の考え方

平成 30 年度までの蔵書数をもとに、分類別構成比の考え方を踏まえて今後 5 年間の蔵書数の推移について下記の通り進めます。

【0 総記】

百科事典や新聞縮刷版など調査・研究に必要となる参考資料が多く、発行状況によって速やかな更新を行います。

【1 哲学】

哲学や自己啓発、宗教関係など、必要な資料を選別しながら収集を行います。

【2 歴史】

地理、旅行関係本は幅広い世代に人気が高く、情報の入れ替わりも激しいためこまめな更新を行います。

【3 社会】

法律、制度関係等、最新の情報を提供するため随時速やかな資料の更新を行います。

【4 自然】

地域資料に含まれない世界自然遺産関係等、斜里に関連する自然科学の資料を中心に収集を行います。

【5 技術】

趣味実用関係の資料が多く、貸出回転率も高い分類です。情報が古くなった資料や痛んだ資料を更新しながら新鮮な資料の状態を保持します。

【6 産業】

農業、漁業、観光業等の基幹産業を中心に、適切な資料の更新を行います。

【7 芸術】

ジャンルの幅広い分類であるため、様々な資料をバランスよく更新していきます。

【8 言語】

辞書事典類の所蔵状況を確認しながら、適切な更新と収集を図ります。

【9 文学】

現状の蔵書数を維持しつつ、適切な更新を図ります。

【K 児童書】

未就学児～小学生の利用は今後も高いと考えられます。学校や家庭における読書支援のため、児童にとって魅力的な蔵書となるよう適切な更新を行います。

読み物だけでなく、学校や個人での調べものにも対応できるよう、様々なジャンルの資料の更新を図ります。

【E 絵本】

配本等での利用が多いため汚破損対応等の更新頻度が高く、かつ利用も多い分類です。ロングセラーなど長く読み継がれる資料などは買い替えなども行いながら、バランスのとれた蔵書構成となるよう更新を行います。

【C 紙芝居】

幼児向けから児童向けまで年代に合う資料を収集しながら、ニーズの高まっている高齢者向け紙芝居の収集も進めます。

【視聴覚資料】

利用状況を把握しながらバランスの良い収集に努めます。VHS、カセットテープは利用状況等を確認しながら、可能であれば随時DVDやCDへの更新を行います。

【北海道資料】

北海道に関する専門的な資料を集めます。一般的な資料や北海道に特化しない資料は分類ごとに分けられるため、徐々に全体の構成率を下げっていきます。

【S 地域資料】

地域の財産として斜里・知床に関する資料は保存するため、複本で収集します。また、寄贈依頼の呼び掛けを検討しながら、地図、映像資料、各種パンフレット等、活字資料以外の資料収集も行います。汚破損や紛失の場合以外基本的には除籍を行うことはないことから、蔵書は年々増加していきます。

【Z 雑誌】

分野に偏りがないよう、さまざまな種類の雑誌を更新していきます。定期刊行物であることからある一定程度の期間継続して収集を行う必要はありますが、定期的に購入雑誌の見直しを行い、利用者のニーズを図りながら整備します。

3. 平成31年度(2019年度)～35年度(2023年度) 分類別蔵書数の推移表

※1冊の平均単価を1,700円として、購入のみの増加予定冊数を算出

※構成率 1% = 約1,000冊

分類	H30年予定	構成率	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)	34年度 (2022年度)	35年度 (2023年度)	構成率
0. 総記	2,200	2%	2,230	2,260	2,290	2,320	2,320	2%
1. 哲学	2,100	2%	2,170	2,240	2,310	2,380	2,380	2%
2. 歴史	5,200	5%	5,320	5,440	5,560	5,680	5,680	5%
3. 社会	5,800	6%	5,950	6,100	6,250	6,400	6,400	6%
4. 自然	4,500	4%	4,630	4,760	4,890	5,020	5,020	4%
5. 技術	7,000	7%	7,150	7,300	7,450	7,600	7,600	7%
6. 産業	2,800	3%	2,900	3,000	3,100	3,200	3,200	3%
7. 芸術	6,900	7%	7,030	7,160	7,290	7,420	7,420	7%
8. 言語	1,200	1%	1,220	1,240	1,260	1,280	1,280	1%
9. 文学	23,000	23%	23,270	23,540	23,810	24,080	24,080	22%
K. 児童書	20,000	20%	20,500	21,000	21,500	22,000	22,000	20%
E. 絵本	14,500	14%	15,000	15,500	16,000	16,500	16,500	15%
C. 紙芝居	1,000	1%	1,050	1,100	1,150	1,200	1,200	1%
北海道資料	2,100	2%	2,130	2,160	2,190	2,220	2,220	2%
視聴覚資料	2,500	2%	2,550	2,600	2,650	2,700	2,700	2%
一般資料計	100,800	100%	103,100	105,400	107,700	110,000	110,000	100%
斜里関連資料	4,800		5,300	5,800	6,300	6,800	7,300	
備品計	105,600		107,800	110,000	110,500	111,000	111,500	
年間除籍数			1,200	1,200	1,200	1,200	3,500	
増加予定数			3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	
雑誌	4,400	4%	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	
総計	110,000	100%	112,800	115,600	118,400	121,200	121,700	

資料購入費要求額 600万円想定